

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安全・安心・納得・満足の学校生活。「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」

- 学びの充実で生徒の夢実現！目標達成できる教育実践をめざす学校
- 丁寧な規律指導で規範意識を養い、寄り添う心で人間教育を大切にする学校
- 他者と自分を大切にし、自己有用感をもって社会貢献できる人材を育成する学校。
 - ・ 普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
 - ・ 体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上

(1) 生徒が「何を学び」「何を理解し」「何ができるようになったのか」を自覚し、説明できる授業。

- ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
- イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。

(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。

- ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
- イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。

※ 卒業時アンケートにおける「3年間勉学に一生懸命取り組めた。」の肯定率を令和6年度には75%以上とする。

(R3 : 83.2%、R2 : 72.0%、R1 : 63.4%)

※ 卒業時アンケートにおいて「大塚で3年間学んで学力面で伸びた。」の肯定率を令和6年度には70%以上とする。

(R3 : 70.8%、R2 : 61.5%、R1 : 57.1%)

2 志や夢のはぐくみ

(1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能（的確な情報提供・進路HR・進路相談）の充実を図る。

※ 進路アンケートにおいて「第1希望をかなえることができた。」の肯定率を令和6年度には90%以上とする。(R3 : 95.2%、R2 : 91.1%、R1 : 82.2%)

(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。

(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。

※ 大学（4年制）進学率を令和6年度には70%とする。(R3 : 61.4%、R2 : 58.2%、R1 : 53.0%)

※ 大学入学共通テストの受験者率を令和6年度には10%とする。(R3 : 2%、R2 : 4.8%、R1 : 12.0%)

※ 就職内定率を令和6年度も100%を維持する。(R3 : 100%、R2 : 100%、R1 : 100%)

3 豊かな心と社会性の育成

(1) 「あたりまえのこと（挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守）をあたりまえに！」を合言葉に、丁寧な指導で規律規範の確立、納得の生徒指導に努める。

ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。

※ 遅刻総数を令和6年度には250件以内とする。(R3 : 513件、R2 : 479件、R1 : 678件)

イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安全で安心な学校づくりを推進する。

ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、保護者との三者面談100%実施をめざす。

エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。

オ 学校行事（大塚祭）の充実及び部活動の充実を図る。

※ 普通科生徒の部活動加入率を令和6年度には75%以上とする。(R3 : 72%、R2 : 71.4%、R1 : 66.3%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格の育成をめざす。

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進（開かれた学校づくり）

(1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。

ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。

イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。

(2) オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。

ア スポーツ講演会の開催

イ スーパーインストラクター招聘事業

(3) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

(4) 進展する少子化に対応するための魅力ある学校づくりを推進する。

(5) 首席、ミドルリーダーが中心となり、出前授業、学校説明会、中学校訪問など広報活動を成長の場面と捉えて、積極的に運営にかかわっていく。

5 次代を担う人材の育成

(1) 若手教員の育成とミドルリーダーの養成を図る。

ア ミドルリーダーが講師となり、自身の成長につなげるとともに、教職経験年数の少ない教員を対象とした校内研修を実施し人材を育成する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>(生徒)「授業について教え方は工夫されている」肯定率 66.1% (昨年度 61.3%・一昨年度 49.0%) 「授業はわかりやすく楽しい」60.2% (55.6%・45.5%) 「コンピューターや視聴覚教材などを使って発表する機会がある」81.2% (61.2%・42.1%)</p> <p>(教員)「生徒の到達度に合わせて、学習指導の方法や内容について工夫している」72.7% (82.1%・89.9%) 「コンピューター等の ICT 機器を教科の授業などで活用している」90.9% (88.9%・57.1%) 「参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている」75.8% (71.4%・65.3%)</p> <p>・今年度「授業力向上プロジェクトチーム」「情報委員会」を中心に、タブレットを活用した授業に取り組んできた。その結果、「ICT 機器を授業に活かしている」の教員は 90%を超え、「ICT を使って発表する機会がある」と回答した生徒も 81.2%に上がった。それに伴い、「教え方は工夫されている」66.1%、「授業はわかりやすく楽しい」60.2%と上昇した。ICT を活用した授業展開をベースとした、生徒が主体的に学ぶ授業・学び合う授業へ、生徒自身が学びを実感できる授業への転換が急務であり、今後、授業力向上プロジェクトチームを中心にすべての教科で取り組んでいく必要がある。</p> <p>【進路指導】</p> <p>(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」89.8% (83.0%・79.1%)</p> <p>(保護者)「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」74.8% (72.1%・73.0%)</p> <p>(教員)「生徒一人ひとりが興味・関心、適正に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」81.3% (82.0%・75.0%)</p> <p>・進路指導については、ほとんどの項目で数値は上昇または高止まりをしている。今年度は 1, 2 年生保護者進路説明会を 12 月に実施したが、年度当初に保護者へ進路マップを配布し、1 学期中に説明会を企画する必要がある。</p> <p>【生活指導等】</p> <p>(生徒)「学校生活について先生の指導は納得できる」70.7% (63.9%・57.1%)</p> <p>(保護者)「学校の生活指導の方針に共感できる」70.4% (65.8%・65.1%)</p> <p>(教員)「一人ひとりの生徒に向き合った生徒指導を行っている」66.7% (71.4%・77.6%)</p> <p>・生徒指導に関して、生徒保護者ともに数値は上昇している。しかし、教員の数値は下がっている。生徒指導、教育相談、生徒支援が連携し、支援体制を整える必要がある。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>(教員)「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている」87.8% (57.1%・42.9%) 「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」100% (75.0%・73.5%) 「教職員の適正・能力に応じた校内人事や公務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」51.5% (60.7%・46.9%)</p> <p>・校長のリーダーシップのもと、学校運営が行われていることが伺えるが校内組織については 51.5%に下がった。今年度、1 つの分掌を無くして主担という形で個人への分担がなされた結果だと分析する。個人企業に逆戻りするのではなくチームとして動ける組織作りと分掌等の業務分担割の見直す必要がある。</p>	<p>第 1 回 (6/6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度使用教科書選定について、学習指導要領の改訂により、どのように変わったのかという問いに対して、GR コードが入るなど ICT 機器を活用した学びに対応した工夫がみられることを説明。 ・教員の年齢構成、時間外労働時間と働き方改革については、本校では 30 代後半から 40 代が最も多く、部活動指導による時間外労働時間は多い。人員を増やすなどの要請も必要だと感じている。部活動については他校の先事例に学びながら取り組んでいく。 ・体育科での学びについていけない生徒への対応については、生徒の心のケアが必要であり、また、現在の体育科の競技を中心とした教育課程の変更も今後検討する必要がある。 ・小学校の朝の登校の見守り時に、あいさつをしてくれる生徒がいる。自転車マナーについても学校できちんと指導をしてくれているので安心している。 <p>第 2 回 (11/14)</p> <p>○スクール・ミッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塚高校はスポーツが活発な学校であるので、スクール・ミッションにも、スポーツ振興を大塚らしく取り入れてほしい。 ・体育科と普通科の融合が大塚の特徴である。豊かな人間形成とスポーツ振興の融合や心豊かな人材の育成、地域への還元などがスクール・ミッションには必要ではないか。 ・健康をキーワードにするのも良いのではないか。 <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントの穴埋めは多様な思考を狭める。令和の授業にあっていないのではないか。 ・先生の説明などは聞きやすかった。生徒たちは一生懸命聞いていた ・穴埋めの授業が多い。家庭での予習・復習を充実させれば、もう少し授業に特徴を出せるのではないか。 <p>○第 1 回授業アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進度や難易度は自分にとって適切かとい問いの答えが低い。大塚では生徒間の学力差が大きく、講習や補習、英語では習熟度別授業を実施しているがすべての生徒にとって、進度や難易度が適切な授業は難しいが、今後取り組んでいく必要がある。 ・1人1台端末の活用については、授業力向上プロジェクトチームによる研究授業や情報委員会によるICT活用研修を実施しているようだが、今後さらにGIGAスクール構想に対応した、授業づくりに向けて取り組んでほしい。 <p>第 3 回 (2/6)</p> <p>○令和 4 年度学校評価及び令和 5 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大塚高校は体育科があり、体育・スポーツの拠点校として地域の将来を担う人材やトップアスリートを育成しているが、令和 6 年度の美原高校との機能統合後は個別の指導や支援も一層充実させて欲しい。 <p>○令和 4 年度第 2 回授業アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より第 1 回、第 2 回とも数値が向上している。授業力向上プロジェクトチームの効果が現れている。次年度も続けて欲しい。 ・予習復習の時間については、朝学に結び付けるなど工夫しながら時間数を増やしていく方法も考えて欲しい。 ・授業評価を活用してさらに授業改善を進めて欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3 年度数値]	自己評価
1 確かな学力の向上	<p>(1) 生徒が「何を学び」「何を理解し」「何ができるようになったのか」を自覚し説明できる力を養う授業。</p> <p>ア 授業改善に向けた取組みの推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを取り入れた授業改善に関する教員研修を計画・実施する。 ・1・2学期に設定している研究授業週間に加え、1年間全ての授業を公開とし、授業改善に繋げる。 ・他校での実践から学び、講義型授業だけでなく、ペアワークやグループ学習を含む協同学習に取り組み、スキルアップを図る。 ・習熟度別展開授業やTT授業などにより、個々の生徒に応じた学力の向上を図る。 ・年間行事の精査を行い授業時間の増加に努める。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向け学校教育自己診断「参加体験型の学習などの指導方法の工夫・改善」の肯定率 75% [71.4%] ・教員相互の授業見学を行い、相互の観察結果をもとに、自己研鑽の材料とする。 ・教員一人一度の他校での授業見学研修計画実施 (振り返りシート提出 40 枚 [30 枚]) ・教員が積極的に他校の公開授業や教育産業の実施する研修に参加する。 70% [68.2%] ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく、楽しい」の肯定率 60% [55.6%] ・授業アンケートの全項目(9項目)の平均肯定率 85% [81.6%] 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上プロジェクトチームを立ち上げ。授業改善に取り組んだ。その結果「参加体験型の学習などの指導方法の工夫・改善」の肯定率は 75.8%に上昇した。(◎) ・研究授業週間の2回目を研究授業月間に変更し、10年経験者研修と授業力向上PTがコラボして研究授業を行った。振り返りシートの提出は 41 枚と増加した。(◎) ・他校の実践や教育産業が実施する研修への参加意欲が少しずつ高まり、参加率は 74.8%に上昇した。(○) ・習熟度別授業や TT 授業を多く展開したことで、生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく、楽しい」の肯定率は 60.2 に上昇した。(◎) ・授業力向上 PT を中心にした取り組みが、教職員の授業力向上に繋がり、授業アンケートの全項目(9項目)の平均肯定率は 87.1%に上昇した。(◎)
	イ ICT を活用した授業の推進	イ	イ	イ
	ウ 生徒の学習意欲の向上への取組み	ウ	ウ	ウ

府立大塚高等学校

<p>2 志や夢のはぐくみ</p>	<p>(1) 夢の実現に向けた進路指導の推進</p> <p>ア ガイダンス機能の充実</p> <p>イ 進学講習の推進</p> <p>ウ キャリア教育の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに進路 HR、進路分野別説明会などを実施し、生徒自らの意志で進路を選択できるような確かな情報提供を図る ・1年生を対象とした大学見学会を実施する。 ・保護者対象に奨学金説明会などを開催し、進路情報の提供に努める。 ・進路指導室の充実を図り、相談や資料閲覧など生徒の利用を一層促進する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後講習や休業中の集中講習などの各種発展講習を計画的に実施し、進学希望者を支援する。 ・休業中に学校外の施設において勉強合宿を実施し、学力の向上とともに、進路に対するモチベーションを高める。 ・分掌、教科を横断した総括する係を新設し、各種講習を効果的に実施する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓や面接指導の実施など、就職の希望者の状況に応じた指導を行うとともに、公務員試験に向けた講習を実施し、進路実現を図る。 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに保護者対象の進路説明会や1・2年生対象の大学、短大、専門学校等の講師による進路分野別説明会の実施。 ・生徒向け学校教育自己診断「進路について必要な情報を提供してくれる」の肯定率 90% [85.6%] ・卒業生アンケートの「進路指導室利用」の肯定率 70% [62.7%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習などの実施 ・2,3年生を対象とした長期休業中に行う大学での勉強合宿の実施。 ・大学（四年生、短期）進学率 65%以上 [61.4%] 共通テスト入試受験者率 5% [2%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率 100%維持 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数の増加 [5名] ・卒業生アンケート「第1希望をかなえることができた」の肯定率 90% [95.7%] 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の説明会や生徒対象の分野別説明会を予定通り実施した。実施後の保護者アンケートでも「とても役に立った」というコメントをいただいた。(○) ・生徒向け学校教育自己診断「進路について必要な情報を提供してくれる」の肯定率は 89.1%に上昇した。(○) ・進路指導室内の配置や資料の充実、入り口付近の机の活用など、生徒が利用しやすいように工夫したが肯定率は 47%に減少した。(△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝や放課後の講習を計画的に実施した。共通テスト直前講習も少人数で実施した。(○) ・長期休業中の学校外施設での勉強合宿は外部施設の事情で実施できなかった。(△) ・大学（四年生、短期）進学率は現時点で 65.7%。(○) ・共通テスト入試受験者率 5.5%に上昇した。(◎) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業開拓や面接指導、応募前職場見学により、就職内定率 100%維持を維持した。(○) ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験に 5名が合格した。(○) ・卒業生アンケート「第1希望をかなえることができた」の肯定率は 97%に上昇した。(◎)
-----------------------	--	--	---	---

府立大塚高等学校

<p>3 豊かな心と社会性の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と教育相談体制の充実 ア 時間厳守・挨拶、ルールやマナーの遵守できる学校 イ 交通安全や薬物乱用防止に向けた規範意識の醸成 ウ 個に応じた支援体制の充実</p> <p>(2) 特別活動等を通じた自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上 ア 部活動活性化へ向けた取組みの推進 イ 学校行事の充実</p> <p>(3) 生命の尊さに気づかせ自他を認める態度や人格の育成 ア 総合的な人権教育の推進 イ 災害時に自らの命を守る行動ができるよう安全指導の徹底</p>	<p>(1) ア ・早朝立ち番指導（挨拶と自転車指導、遅刻指導）を継続実施する。 ・遅刻の多い生徒に対し、「振り返りシート」などを活用し、丁寧な個別指導を実施する。 ・「教員自らが先に生徒へ挨拶を」を励行する。 イ ・交通安全教室、薬物乱用防止教室の実施や科目「保健」の学習など、教育活動全体で機会を捉えて、生徒への啓発に積極的に取り組む。 ウ ・教員研修の充実を図り、教員の意識を高め日頃からカウンセリングマインドを持ち生徒に接する。 ・ケース会議を効果的に運用し、生徒支援に努める。 ・家庭との緊密な連携を図り、生徒の状況の把握に努め、課題の早期発見をめざす。 ・教育相談室の有効活用を促進する。</p> <p>(2) ア ・クラブ紹介の充実や新入生全員参加のクラブ見学の複数回の設定など体験入部の方法を改善し、普通科生徒の部活動入部を促進する。 ・大塚祭等において文化部の活動を発表する機会を増やす。 イ ・大塚祭体育の部の取組みを継続するとともに、文化の部の充実・活性化を検討する。 ・普通科生徒にとって一層魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>(3) ア ・「人権教育推進計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。 ・教員対象の研修会を実施し、生徒に寄り添い人権に配慮した生徒指導、部活動指導などに努める。 イ ・日常的に安全教育・指導に努め、災害時の避難行動について理解できるよう、様々な事態を想定した実践的な避難訓練を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。</p>	<p>(1) ア ・教務遅刻数 500 件以下 [513 件] ・生徒向け学校教育自己診断「先生は言葉遣いなどについて指導してくれる」の肯定率 95% [91.6%] イ ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 90% [86.1%] ウ ・生徒向け学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 70% [67.4%] ・毎朝の学年主任と教頭の連絡会実施。情報を教育相談委員会と連携する。 ・懇談週間等、様々な機会における保護者との三者面談の実施率 100%</p> <p>(2) ア ・普通科の部活動入部率 75% [72.0%] 普通科の文化部加入率 20% [20.0%] イ ・生徒向け学校教育自己診断「大塚祭等、学校行事は工夫されている」の肯定率 75% [73.4%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率 体育科 85% [体育科 83.4%] 普通科 80% [普通科 75.1%]</p> <p>(3) ア ・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率 95% [92.5%] ・卒業生アンケート「人権問題に関心をもっていますか。」の肯定率 85% [78.8%] イ ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率 70% [57.5%]</p>	<p>ア ・早朝の立ち番指導を継続して実施。教務遅刻は、357 件と大きく減少した。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は言葉遣いなどについて指導してくれる」の肯定率は 94.1%に上昇した。(○) イ ・松原警察署や松原市役所、藤井寺自動車教習所と連携して安全教育に取り組んだ。生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率は 89.9%に上昇した。(○) ウ ・SSW による教職員研を実施し、多様な生徒支援の在り方を学び始めたことで、生徒向け学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率が 71.6%に上昇した。(◎) ・毎朝の連絡会を実施し迅速に生徒情報を共有し、支援につなげている。(○) ・懇談週間等における保護者等との三者面談の実施率は特別な場合を除き 100%実施できた。(○)</p> <p>ア ・学校全体の部活動加入率は 80.8%。普通科の文化部加入率は 15.6%に留まったが、普通科生徒の部活動入部は 74.0%に上昇した。(○) イ ・コロナ禍での大塚祭の開催であったが、生徒自治会を中心に今できることに取り組んだ結果、生徒向け学校教育自己診断「大塚祭等、学校行事は工夫されている」の肯定率は 79.5%と大きく上昇した。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率は体育科 84.1%とわずかに上昇、普通科 71.8%と減少した。(△)</p> <p>ア ・「人権教育計画」に基づき、人権 HR や人権講演会を実施した。特に講演会は生徒教員とも好評だった。生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率 95.0%に現れた。(◎) ・卒業生アンケート「人権問題に関心をもっていますか。」の肯定率は 78%とわずかに減少した。(△) イ ・実践的な避難訓練を実施し、各 HR に「自衛隊防災 BOOK」を配置した。生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率は 63.7%と大きく上昇した。(○)</p>
--------------------------	---	---	--	--

府立大塚高等学校

<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>(1) 競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上と効果的な指導方法の研究 イ 地域とのスポーツ交流と地域貢献の推進</p> <p>(2) 魅力ある学校づくりの推進 ア 学校広報の充実</p>	<p>(1) ア ・トップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを実施し、運動部部員の意識を高める。 ・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上に努める。 ・「運動部活動ガイドライン」を踏まえ、週1日の活動休止日の設定や効果的な活動時間、練習方法を研究する。 イ ・本校の教育資源を活用し、地元小学生を対象した「ふれあい大塚スポーツ教室」を実施し、スポーツ交流を推進する。 ・中学校運動部を招いた「大塚CUP」を実施し、スポーツ拠点校としての交流を推進する。 ・文化部の老人福祉施設などの訪問や自治会を中心とした地元中学校との連携及び市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加し、地域交流・貢献に努める。</p> <p>(2) ア ・リニューアルしたHPの効果的な運用を図るため、学年、部活動等ごとにデータ提供を行う担当者を位置付け、中学生等への情報発信に努めるとともに、在校生保護者の安心・信頼感を高める。 ・本校で実施する学校説明会(年間4回実施)の充実を図る。 ・全教員による中学校訪問を実施し、本校の教育活動の周知を図る。</p>	<p>(1) ア ・全校生徒対象の「スポーツ講演会」及び運動部活動生徒対象の「スーパーインストラクター招聘事業」の継続実施 [11回] ・全国高校総体など全国大会への複数クラブ出場 [陸上競技部] イ ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目と参加者の増加 [未実施] ・地域中学校の運動部を招待した大会「大塚CUP」の開催 [未実施] ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業を促進する。 [未実施] ・生徒向け学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率 60% [47.8%]</p> <p>(2) ア ・保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供の努力」の肯定率 70% [67.3%] ・学校説明会「参加者アンケート」の肯定率 95% [95%] ・オープンスクールを1回実施 ・中学校訪問数 150校以上 [100校]</p>	<p>ア ・トップアスリートを招聘した「スポーツ講演会」や運動部活動における「スーパーインストラクター招聘事業」などを合わせて14回実施した。 (○) ・陸上競技部が全国高校総体で男子総合第4位の成績を残した。 (◎) イ ・「ふれあい大塚スポーツ教室」には、地元の小学生約40名が参加し、運動部員と一緒にスポーツを楽しんだ。 (○) ・「大塚CUP」はクラブごとの開催だったが、中学校への広報にもつながった。 (○) ・軽音楽部やダンス部が地域のフェスタ等に参加した。部員にとって成果発表のいい機会になった。 (○) ・生徒向け学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」の肯定率は56.0%と目標には達しなかったものの、大きく上昇した。 (◎) ア ・HPに新たに校長ブログを設け、保護者の学校教育自己診断のコメントには肯定的な意見が多かったが、「進路に関する教育情報の提供」についての肯定率は65.7%に下降した。 (△) ・学校説明会「参加者アンケート」の肯定率は昨年とほぼ同じ95.3%。 (○) ・10月に「ワンデー大塚」を実施。過去最高の317名が来校した。 (◎) ・本校に在籍している生徒の出身中学校や本校に進学の可能性のある中学校への訪問や出前授業を158校に行った。 (◎)</p>
<p>5 次代を担う人材の育成</p>	<p>ア 人材の育成 イ 労働安全衛生管理体制の充実</p>	<p>ア ・10年め研修の教員がチームとなり、自校の課題を議論し、必要なテーマを決め研修を実施する。 イ ・業務の効率化とともに、安全衛生委員会の活性化を図り、教職員の健康管理体制を充実させる。 ・部活動顧問間の業務分担を明確にし、主顧問の負担軽減を行う。</p>	<p>ア ・首席が中心となって1学期に計画、2学期に研修実施。 イ ・教職員の意識改革を進め「時間外勤務月80時間以上」の延べ人数の減少をめざす。 ・会議を定時開始。教職員各自が業務マネジメントに取り組む。 ・職員室、準備室の整理整頓に努める。</p>	<p>ア ・首席と10年経験者研修受講者で構成した授業力向上プロジェクトチームが中心となり、「授業力向上」をテーマとした研修を実施した。この成果が授業アンケートに現れた。第1回 3.35、第2回 3.33 (R3:3.27、3.17) (◎) イ ・12月末時点の80時間以上の延べ人数は90人。かなり多い数値である。しかし、1学期の4か月は53人、2学期の4か月は31人と減少傾向にある。さらに意識改革を推し進める必要がある。 (○)</p>